

山形縣の植物方言 (第2報)

佐 藤 正 己

(山形大学農学部応用植物学研究室)

Masami SATO : Notes on the Local Names of Plants Collected
in Yamagata Prefecture. (2)*

第1報 (本誌 1: 39-44) に対して各方面から多数の御教示を与えられたことを深く感謝する。殊に小林好日氏のスギナの方言に関する詳細な研究 (土筆の系譜) を知らせて下さった御茶水女子大学国文学科学生の佐藤裕子さん、生徒を動員して最上地方の植物方言を採集して下さいました新庄高校の高橋信雄先生、文献調査に協力された山形大学文理学部の喜多義男教授、山形東高校の斎藤義七郎教官並に縣立図書館の三春伊佐夫君には特に深い感謝の意を表する次第である。

(4) タニウツギ (*Weigela hortensis* C. A. MEYER) の方言

タニウツギの方言としては、ガザ系統の方言が庄内地方にも内陸地方にも普遍的に流通している。基本形のガザにキ (木) とかハ (葉) という語尾がついて、ガザ——ガザキ——ガザノキ——ガザパ等が生じ、更にこれと平行してガンザ——ガンザギ——ガンザノキ等がある。但し最上地方ではガザギが圧倒的に通用していて、ガンザ系統は殆んど聞かれぬ。置賜地方は調査が不十分であるが、單にウツギと呼び、ガザ系統の方言は見当らないようである。

ガザ系統の方言は秋田、青森、福島、新潟、岩手、宮城等、東北地方には廣く分布しているが、筆者はまだその語源を知らない。

ガザ系統を除けば、あまり廣く通用する方言はないが、その開花期が丁度日本海岸に鯛の大群が出現する頃なのでイワシバナと云う方言がある。庄内地方では何故かこの木を生ぐさいと称して花を佛前に供することを忌む習慣がある。また火事花と称し、家の中に持込むことを嫌うところもある。またこの木にダニがよくたかることからダニバナの方言が生まれ、更にダニの方言から村山地方にはスグレ又はスダネヌギと呼ばれる。

村山地方の樹木方言には語尾に「ヌギ」がつくものが多いが、これは「ノキ」の訛で、例えばホーノキがホーヌギとなり、マツノキがマツヌギとなる類で、この場合のギは東北辯に多い鼻濁音にきまつている。

山形縣内のタニウツギの方言の分布は、筆者の資料によると次の通である。

* Contributions from the Laboratory of Applied Botany, Faculty of Agriculture, Yamagata University.
No. 14 (February 1952)

イワシバナ 酒田。

ウツギ 米沢, 南置賜 (万世), 西置賜 (小国)。

カキバ, カキンバ 西置賜 (小国)。

ガザ 飽海 (上郷), 酒田, 鶴岡, 東田川 (廣瀬, 藤島, 渡前, 本郷, 山添), 西田川 (大山, 田川), 最上 (及位), 北村山 (亀井田, 尾花沢, 横山, 大高根, 大倉, 楯岡, 東根, 東郷, 戸沢, 富本, 山口, 長瀬, 大富), 南村山 (滝山), 西村山 (白岩, 本郷, 柴橋, 大谷)。

ガザキ 新庄, 最上 (眞室川, 豊里, 鮭川, 東小国, 西小国, 萩野, 舟形, 八向, 古口, 角川), 北村山 (大石田, 大高根, 常盤)。

ガザノキ 北村山 (戸沢)。

ガザバ 北村山 (尾花沢, 宮沢, 玉野)。

カジバナ 東田川 (廣瀬)。

ガンザ 飽海 (本楯, 西遊佐, 吹浦, 一條, 田沢, 内郷, 上田, 西荒瀬), 酒田, 鶴岡, 東田川 (東栄, 黒川, 泉, 渡前), 北村山 (西郷, 東郷, 楯岡, 山口, 大久保)。

ガンザギ 東田川 (余目), 最上 (眞室川)。

カンザシバナ 酒田。

ガンザノキ 酒田, 西田川 (溫海)。

ガンザノハナ 飽海 (松嶺)。

スタネヌキ 西村山 (高松, 東郷), 北村山 (東郷)。

スタレ 北村山 (高崎)。

タニウツギ 新庄, 最上 (眞室川), 北村山 (楯岡)。

ダニバナ 最上 (東小国, 西小国, 萩野, 戸沢)。

デクナシ 西田川 (大山, 上郷)。

ヅクナシバナ 鶴岡, 東田川 (長沼), 西田川 (大山, 上郷, 五十川, 溫海, 念珠ヶ関)。デク (又はヅク) ナシは能なしの意の方言。或は軸無か。

ドマヌギ 北村山 (宮沢)。指物師の方言。

ベニウツギ 飽海 (本楯), 北村山 (玉野)。

ヘビバナ 北村山 (東郷)。

ホネカラハサミ 北村山 (山口)。火葬場で骨拾いに使うためで、主として子供の方言である。

ヤマガザ 西田川 (溫海)。

山形縣以外の方言としては、次の様なものがある。東北地方ではガザ系統の方言が断然多い。

アゼヌリバナ 福井 (全縣下)。

アメフリバナ 岩手 (釜石)。

アカウツギ 青森 (下北)。

イワシバナ 秋田 (平鹿)。

ウツギ 青森 (西津軽, 上北, 下北), 福島 (田村), 長野 (下高井), 新潟 (佐渡)。

ウノハナ 新潟 (刈羽)。

オンナウツギ 長野 (下水内)。

ガザ 秋田 (由利, 南秋田), 青森 (南津軽), 岩手 (岩手, 稗貫), 宮城 (名取, 柴田), 福島 (刈田), 新潟 (刈羽)。

ガザキ 秋田 (鹿角), 岩手 (岩手)。

ガザシバ 青森 (北津軽), 岩手 (東磐)。

カジバナ 新潟 (刈羽)。

ガジャ 秋田 (鹿角, 北秋田), 青森 (南・中津軽)。

ガジャシバ 秋田 (北秋田), 青森 (津軽, 上北, 下北), 岩手 (紫波, 岩手)。

カラウツギ 青森 (上北, 三戸)。

ガンザ 秋田 (南秋田), 青森 (下北), 岩手 (岩手, 稗貫)。

ガンザノキ 秋田 (山本)。

ガンジャ 青森 (東・西津軽)。

ガンジャシバ 秋田 (北秋田), 青森 (下北, 北津軽)。

ソートメツツジ 徳島 (美馬)。

ゾーッパ 新潟 (刈羽)。

タウエバナ 新潟 (刈羽)。

デクナシ 岩手 (稗貫)。

ヅクナシ 新潟 (西蒲原), 岩手 (稗貫, 紫波)。

ヅクナシウツギ 岩手 (紫波)。

テマルコ 高知 (幡多)。

ドーノスネ 新潟 (刈羽)。

ハナウツギ 新潟 (佐渡)。

ベニウツギ 福島 (福島, 石城)。

ヤマウツギ 岩手 (和賀)。

ローッパ 新潟 (刈羽)。

(5) **アスナロ** (*Thujaopsis dolabrata* SIEB. et ZUCC.), **ヒノキアスナロ** (*Th. Hondai* HENRY), **ヒノキ** (*Chamaecyparis obtusa* SIEB. et ZUCC.), **サワラ** (*Ch. pisiifera* ENDL.)

の方言

お互に似ているために混同されたり、誤認されたり、正しい和名と方言とが交叉していたりする表題の4種類の樹木の方言を一括して記すことにした。

アスナロの語源は「明日はヒノキになるだろう」の意味だと云う説があるが、山形縣下にあるアシタナレ、アスダロ、アスナロ、アスナロー等の方言はそれを裏書するものと云える。然しこの呼び名は林業家にはあまり用いられず、むしろヒバが公用語とされている。ところがこのヒバも最近ではアテと云う新しい方言にとつて代られようとしている傾向がある。

アテは石川縣の能登半島方面の方言で、今から約400年前に、日本の三大美林の一つとして有名な青森のヒバ林から移入したヒノキアスナロを挿木によつて増殖し、遂に優良品種の育成に成功した。そして大いにアテた(成功した)と云うのがその語源であると云う。そして現在ではマアテ、クサアテ、カナアテ等の林業品種が設定され、本場の青森や秋田にも苗木がどんどん逆移入されるようになり、山形縣でも既に数千本の苗木を移入している。此等の苗木はヒバとは云わずにアテと呼ばれているが、やがて大きくなつた時にもやはりアテと呼ばれて、アスナロとかヒバとか云う名は滅びてしまうのではないかと思われる。然し新潟縣の佐渡島にはアテビ(アテ檜か?)があるので、語源に就いては再考を要する。

アスナロとヒノキアスナロとは区別が大変困難で、素人は混同するのが当然であるし、両者を無理に区別して方言を調べることは殆んど意味がないから、本稿では両者を統合してアスナロとして取扱うことにした。

庄内地方ではアスナロを生垣にしている家が方々で見受けられるが、その方言としてはサワラが圧倒的である。最上、村山方面ではヒバ、ヒノキ、アスナロ等様々の方言で呼ばれているが、面白いことに、東京弁のようにヒとシの混乱があつて、ヒノキとヒバに対してシノキとシバがある。

サワラやヒノキはあまり身近にないためか、その認識が浅く、混同や誤認による方言の混乱が見られる。

アスナロの枝を切離し、また元通りに差込み「何処つんだ？」とあてさせる子供の遊びから、ツベツベ、ツミツミ、ツギツギバ等の方言があるが、これはアスナロに限つたものではなく、同様な遊び方をするスギナにもあてはまり、スギナにもツミツミ、ツナギグサ等の方言がある。

アスナロに関する山形縣の方言は次の通りである。

アシタナレ 最上(八向), 新庄.	西田川(大泉), 最上(戸沢), 北村山(東郷).
アシダロ 飽海(本楯).	シノギ 最上(鮭川), 北村山(山口, 東郷, 高崎).
アスダロ 飽海(上田, 吹浦), 北村山(玉野).	シノギヒバ 北村山(山口).
アスナロ 最上(八向, 東小国, 眞室川), 新庄,	シバノキ 北村山(玉野).
西村山(白岩).	ツベツベ 西田川(西郷).
アスナロー 最上(豊里).	ツミツミ 鶴岡, 西田川(大泉).
サワラ 酒田, 鶴岡, 東田川(廣野, 余目, 泉).	ヒカワ 北村山(大石田).

ヒノギ 西田川 (大泉), 最上 (西小国, 萩野),
北村山 (西郷, 東根, 大富), 西村山 (白岩).

ヒバ 最上 (及位, 萩野, 舟形, 角川, 眞室川),

新庄, 北村山 (宮沢, 亀井田, 大高根, 楯岡, 東郷, 富本, 大久保), 西置賜 (小国).

ヒバナ 最上 (萩野).

アスナロの方言としては山形縣以外では僅かに次のものしか採集し得なかつた.

アヲキ 岩手 (紫波).

アオビ 徳島 (那賀).

アスナラ 秋田 (由利), 島根, 高知 (土佐).

アスナロ 秋田 (南秋田, 由利), 其他各地.

アテビ 新潟 (佐渡), 静岡, 岐阜.

アテ 石川 (能登), 富山, 福井, 岐阜, 京都, 滋賀, 岡山, 島根.

オニヒバ 三重 (宇治山田), 岩手 (胆沢).

クサマキ 新潟 (刈羽), 岩手 (気仙), 宮城 (本吉). 材が強い香気を放つので, 「臭いマキ」の意で

ある. 石川 (能登).

サワラ 岩手 (江刺), 栃木, 長崎, 熊本.

シラビ 宮城 (栗原, 玉造).

シロビ 岩手 (稗貫, 西磐井). 葉の裏面が白色であるため.

ツガルヒノキ 秋田 (仙北).

ツギツギバ 三重 (山田).

ヒノギ 秋田 (仙北), 岩手 (岩手, 東・西磐井).

ヒバ 福島 (河沼), 青森 (上北, 中津軽), 岩手 (九戸), 宮城 (宮城, 名取), 石川 (青森産のもの).

ヒノギに関する山形縣下の方言は次の通りで, あまり数が多い.

サワラ 東田川 (黒川).

シヌギ 北村山 (横山, 小田島).

シノギ 最上 (萩野), 北村山 (玉野, 東郷, 高崎).

トコトコ 飽海 (本楯).

ヒヌギ 北村山 (横山, 小田島), 西村山 (高松).

ヒノキ 最上 (豊里, 金山, 安樂城, 古口, 戸沢, 及位, 八向, 東小国, 西小国, 萩野, 舟形, 角川, 眞室川), 新庄, 北村山 (玉野, 亀井田, 西郷, 大高根, 楯岡, 富本, 大富), 西村山 (白岩), 南置賜 (万世), 西置賜 (小国).

ヒバ 東田川 (大泉), 北村山 (宮沢, 楯岡, 東郷, 山口, 東根, 大久保, 戸沢).

ヒバノキ 北村山 (大富).

ヒンバク 東田川 (大泉).

ヘンバク 西村山 (白岩).

ヒノギに関する山形縣以外の方言としては次のようなものがある.

アオキ 長野 (東築摩). 常緑の意.

キソヒノキ 秋田 (北秋田), 青森 (東津軽, 上北).

カミヒノキ 青森 (東津軽).

キンヒバ 岩手 (気仙).

サワラ 青森 (南・北津軽).

シバノキ 福島 (田村).

センバク 青森 (上北).

ツギツギバ 三重 (山田).

ヒノキ 秋田 (南秋田, 由利), 青森 (中津軽, 上北, 福島 (河沼), 岩手 (東磐井), 宮城 (本吉),

新潟 (佐渡, 刈羽), 熊本 (人吉, 四国全般).

ヒノツ 鹿児島 (姶良).

ヒバ 福島 (福島, 伊具, 会津), 青森 (中津軽, 上北, 下北, 三戸), 宮城 (本吉, 加美, 牡鹿, 黒川).

ヒバノツ 鹿児島 (姶良).

ヒヌキ 宮城 (宮城, 名取), 岩手 (紫波).

ホンヒ 千葉, 富山, 鳥取, 島根.

ヘンバク 福島 (石城), 岩手 (稗貫, 気仙).

ヨメゴロシ 長野 (佐久). 燃やすと煙が多く出て嫁が苦勞する意味.

サワラはあまり普通でないためか, 方言も少く, また誤認によるものが多いようである. 山形縣内で得た資料は次の通りである.

アスナロヒノキ 酒田.

サワラ 最上 (戸沢, 及位, 八向, 舟形, 東小国, 眞室川), 新庄, 北村山 (玉野, 大久保, 戸沢),

西置賜 (小国).

サワラギ 最上 (舟形, 角川), 新庄.

シノギ 北村山 (東郷, 高崎).

ヒノギ 西田川 (湯田川), 最上 (西小国, 萩野),
北村山 (西郷, 大高根).

口, 東根, 富本, 大久保, 山口, 大富, 西村山 (白
岩).

ヒバ 北村山 (宮沢, 亀井田, 楯岡, 東郷, 山

ヒバノキ 北村山 (大富).

サワラに関する方言を全国的に拾つてみると次の様なものがある.

カキシバ 秋田 (北秋田).

取, 新潟, 千葉, 宮崎.

サラビ 青森 (東津軽, 上・下北).

ヒバ 新潟 (刈羽), 青森 (三戸), 岩手 (岩手,

サワラ 秋田 (南秋田, 由利), 福島 (河沼), 青
森 (中津軽), 岩手 (稗貫), 宮城 (気仙).

上閉伊, 紫波, 稗貫, 和賀, 江刺, 東磐井, 西磐
井), 宮城 (宮城, 名取), 福島 (刈田).

サラビ 青森 (東津軽, 上北, 下北).

ヒロビ 宮城 (陸前各地).

シロヒバ 岩手 (気仙).

ヨメゴロシ 長野 (佐久). 薪として燃やすと煙

ヒノキ 熊本 (人吉), 岩手 (下閉伊), 岡山, 鳥

が出て嫁が苦しむと云う意味.

(6) **ネムノキ** (*Albizia Julibrissin* DURAZ. var. *speciosa* KOIDZ.) の方言

ネムノキの方言としては、葉の睡眠運動に関係のあるネム系統の方言が全国的に共通している。ところが山形県の庄内地方では、正しくネムノキと呼ぶ以外は、コーゴ、コーゴノキ、コーノキ等のコゴ系統の方言が圧倒的に通用している。この地方では、子供の遊びの歌にも、“コーゴ、コーゴ、眠れ、ねむねど (眠らないと) こぐぞ”があり、ネムノキの葉をしごいて、葉の睡眠運動を強制して遊ぶ風習がある。

コーノキの語源は香を作る木の意で、庄内地方では夏に枝をとり、天日で乾燥した葉をよくもんで粉にし、佛前に具える香を作るのである。同様の風習が内陸地方にもあると見え、最上郡と北村山郡の一部にマツコー (抹香) ノギの方言があるが、コーゴ系の方言は全く内陸地方には流通しない。それなのに却て新潟縣にコーコやコーコーノキがあり、更に遠く離れて四国の高知と、愛媛の両縣にかなり広くコーカ、コーカギがあり、更に背中合せの岩手と宮城の両縣にコーカンボクがあるのも面白い。

然し注意する必要があるのは、その語源でコーカンボクは明に漢名の合歓木からきたものであり、コーカやコーカギもその系統であろう。日本語の母語の母音のずれは、小林好日氏の「土筆の系譜」にもあるように、極めて普通のことであるらしいから Kō-ka-n から Kō-ko が生れ更に Kō-go に変化することも十分に推察される。それは後に挙げるように、ネムノキの方言として Kō-ka や Kō-ke などがあることがよい証明になると思う。

コーゴはコーカからも導かれるが、同時に上述の様に香を作っていることや、マツコーノキとかセンダンと云う方言があることから、独立に生れたものと解釈することもできる。勿論此等の方言の発生年代を確めないと断定はできないが、一応このような解釈をして、専門家の御教示を待つことにする。

何れにしても、山形県の内陸地方になくて庄内地方だけに流通するコーゴ系の方言が新潟縣にあることは、第1報に記したフキのとうの方言バンケと同様に、文化の傳達の経路を暗示するもののように思われる。

山形縣下のネムノキの方言とその分布は次の通りである。

コーコ, **コーゴ** 飽海 (吹浦, 本楯), 鶴岡, 東田川 (黄金, 藤島, 渡前, 廣野, 八榮里, 山添, 斎, 黒川, 東), 西田川 (東郷, 溫海, 田川, 大泉, 西郷, 大山, 加茂, 上郷, 豊浦).

コーコノキ, **コーゴノキ** 飽海 (北平田, 上郷, 内郷, 観音寺, 田沢, 遊佐, 本楯), 鶴岡, 東田川 (藤島, 渡前, 栄, 泉, 八榮里, 狩川, 立谷沢, 山添, 本郷, 大泉, 押切, 横山), 西田川 (大山, 大泉, 田川, 湯田川, 袖浦, 溫海, 念珠ヶ関).

コーノキ 飽海 (遊佐), 西田川 (加茂, 上郷).

コグ 西田川 (溫海).

コゴノキ 東田川 (余目), 飽海 (吹浦, 遊佐, 蕨岡, 西遊佐, 高瀬, 稻川).

ネブキ 最上 (八向).

ネブタ 東田川 (立谷沢), 西置賜 (小国).

ネブタギ 北村山 (尾花沢, 宮沢).

ネブタゴヌキ 北村山 (玉野).

ネブタンゴヌキ 北村山 (玉野).

ネブノキ 最上 (舟形, 角川), 新庄.

ネブリ 飽海 (西荒瀬).

ネム 最上 (及位, 舟形), 北村山 (東根), 西村山 (白岩).

ネムタギ 北村山 (富本), 西村山 (白岩).

山形縣以外でのネムノキの方言とその分布は次の通りである.

イボノキ 岩手 (岩手).

ウシゴメ 岡山 (小田).

カアカア 島根 (石見地方).

カーカノキ 島根 (簸川).

コーカ 高知 (高岡, 幡多, 長岡, 安芸), 徳島 (海部), 新潟 (滋賀, 兵庫, 大阪, 岡山, 廣島, 愛媛).

コーカイ 岡山, 廣島, 山口, 福岡.

コーカギ 愛媛 (上浮穴, 温泉, 宇摩), 徳島 (美馬), 高知 (幡多, 高岡, 土佐, 香美, 安芸, 長岡).

コーカノキ 新潟 (佐渡), 宮城, 福井, 三重, 和歌山, 岡山, 福岡, 佐賀, 長崎, 大分, 宮崎.

コーカンボ 福島 (石城).

コーカンボク 岩手 (稗貫, 気仙), 宮城 (本吉), 茨城, 静岡.

コーケ 長崎 (壹岐).

デンゴクマッコー (秋田).

ネムタグサ 北村山 (小田島, 楯岡, 東根, 大富), 西村山 (谷地).

ネムタヌギ 北村山 (大高根, 尾花沢, 大富), 南村山 (上ノ山).

ネムタンギ 西村山 (柴橋).

ネムリギ 東田川 (大泉, 本郷), 西田川 (五十川), 新庄, 北村山 (大石田, 亀井田, 常盤, 大倉, 大高根, 戸沢, 楯岡, 東郷, 東根, 長瀬, 高崎), 西置賜 (小国).

ネムリコ 東田川 (大泉).

ネムリコーケ 西田川 (福栄).

ネムリコーゴ 西田川 (溫海, 豊浦, 福栄).

ネムリッチョ 飽海 (一條).

ネムリノキ 酒田, 北村山 (楯岡, 東郷, 大久保, 山口), 南村山 (滝山), 南置賜 (万世).

ネムリバナ 新庄, 最上 (鮭川), 北村山 (大久保, 戸沢).

ネムリング 北村山 (小田島).

ネムレ 飽海 (内郷, 西荒瀬, 南遊佐), 酒田.

ネムレンクサ 北村山 (西郷).

マッコノキ 最上 (八向, 鮭川).

マッコヌギ 北村山 (亀井田, 大高根, 東郷, 山口).

コーコ 新潟 (西蒲原).

コーコーノキ 新潟 (刈羽).

センダン 岩手 (胆沢, 江刺).

ネブタ 秋田 (北秋田), 岩手 (胆沢, 江刺), 神奈川 (津久井), 千葉 (安房, 長生, 夷隅), 高知 (高岡, 安芸).

トコロテンバナ 新潟 (佐渡-海府).

デゴクバナ 秋田 (南秋田).

ネブタギ 秋田 (北秋田).

ネブタギ 秋田 (北秋田), 高知 (幡多, 土佐, 安芸), 宮城 (栗原, 宮城), 愛媛 (宇摩).

ネブチャ 高知 (幡多, 高岡, 安芸).

ネブッタ 埼玉 (秩父).

ネブノキ 秋田 (南秋田), 高知 (高岡, 幡多), 青森 (津軽一戸, 三戸), 岩手 (九戸).

ネブリギ 高知 (高岡), 青森 (東津軽, 下北), 三重, 和歌山, 廣島, 島根, 大分, 熊本, 長崎, 愛媛.

ネブリコ 香川 (綾歌).
 ネブリチャ 高知 (幡多).
 ネムタ 岩手 (東磐井), 宮城 (加美, 黒川), 福島 (刈田, 伊具).
 ネムタギ 愛媛 (中豫地方).
 ネムタノキ 福島 (田村), 岩手 (胆沢).
 ネムノキ 秋田 (由利), 香川 (綾歌).
 ネムリギ 島根 (石見地方).
 ネムリノキ 福島 (福島), 宮城, 静岡, 岐阜, 京都, 兵庫, 和歌山, 島根.
 ネムリンコ 福島 (石城).
 ネンゴノキ 青森 (下北).
 ネンネコグサ 福岡 (福岡).

ネンネコノキ 長崎 (島原半島).
 ネンネコンボノキ 福岡 (八女).
 ネンネングサ 福岡 (糟屋).
 ネンブ 静岡 (遠江), 兵庫 (幡磨).
 ネンブタ 秋田 (平鹿).
 ネンブリ 静岡, 滋賀, 三重, 奈良 (宇陀), 岡山.
 ネンブリキ 青森 (三戸).
 ヒグラシ 香川 (香川, 大川).
 マッコ 宮城 (名取).
 マッコノキ 秋田 (由利・北秋田), 宮城 (加美, 黒川).
 ヨネブリ 愛媛 (宇摩).
 ヨーヨーネブリ 岡山 (岡山).

参 考 文 献

- 1) 秋田営林局：管内国有林植物目録 (秋田, 1934).
- 2) 青森営林局：三陸植物誌 (青森, 1935).
- 3) 藤井龍之助：石川理紀之助著「庵の手なべ」中に用いられている植物方言 (自然科学と博物館 18: 277-279, 1951).
- 4) 日野 澄：日向方言論考 (宮崎, 1942).
- 5) 小林好日：国語学の諸問題 (岩波書店, 1941).
- 6) 高知営林局：四国樹木名方言集 (高知, 1936).
- 7) 孫福 正：郷土の生物方言調査 (宇治山田, 1933).
- 8) 水口 清：秋田の植物方言 (鷹巣, 1930).
- 9) 村松七郎：秋田縣植物誌 (秋田, 1932).
- 10) 農林省山林局：樹種名方言集 (東京, 1932).
- 11) 笹村祥二：釜石地方植物方言誌 (釜石, 1952).
- 12) 佐藤邦雄：佐久の植物方言 (岩村田, 1950).
- 13) 佐藤正己：山形縣庄内地方の植物方言 (山形縣立農事研究報告 3, 1-49, 1950).
- 14) 佐藤正己：山形縣の植物方言 1, (山形農林学会報 1: 39-44, 1951).
- 15) 佐藤正己：ヒバ方言考 (青森林友 27-1: 11-12, 1952).
- 16) 橋 正一：樹の方言 (方言と土俗 3-7: 1-10, 1932).
- 17) 橋 正一：全国植物方言集 (盛岡, 1939).
- 18) 千代延尙寿：石見の樹木方言 (方言 3: 916-921, 1933).
- 19) 東條 操：全国方言辞典 (東京, 1951).
- 20) 山田義三郎：耐陰性針葉樹, 特にアテの導入について (蒼林 2-6: 17-24, 1951).

○食糧資源として利用される単細胞の藻類

Geoghegan, M. J.: Unicellular Algae as a Source of Food (Nature 168: 426-427, 1951).

農作物の増収率よりも人口の増加率の方が高い今日, 農業以外の方法によつて食糧を獲得する必要が生ずる. この目的に適合したものとして, クロレラやセネデススのような淡水産の単細胞の緑藻類の利用が考えられる. 既に基礎的実験による計算によれば, 反当収量は既知のあらゆる農作物よりも此等の下等な藻類の方が遙かに多いことが明にされている.

著者は英国の帝国化学工業会社の実験所でクロレラを材料として種々の実験を行つた. そして最も改良さ

れた装置として, 長さ 4.5ft. で直径 2.8ft. の硝子筒を用い, 培養液にはアンモニア態の窒素を与え, pH は 6 に補正し, 温度は 25 度, 継続的に 1300FC の屋間光の蛍光灯で照明した. この結果平均 1 日に 1ℓにつき 0.7g の乾燥物質を得ることができるようになった. この物質の 47% は蛋白質で, 脂肪は最高 5% に達する. これは動物の飼料として勿論, 人類の食糧として利用することが可能である. 凍結乾燥したクロレラの細胞を 17% 含んだ飼料で鼠を飼育した結果によれば, その蛋白質効果は脱脂乳には劣るがビール酵母や落花生よりは遙に高いことが証明された. (佐藤正己)